

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102418		
法人名	社会福祉法人 日生会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ステラの風		
所在地	熊本県熊本市南区並建町758		
自己評価作成日	平成31年2月1日	評価結果市町村受理日	令和元年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成31年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・お一人、お一人の生活リズムや持っていらっしゃる力に合わせて、支援しています。 ・地域との繋がりを大切に、また地域住民とし、それらを利用者様にも感じて頂きたく、地域行事への参加を積極的に取り入れています。また施設の事、認知症の方の事を知ってもらう機会にも繋げたいと考えています。 ・医療連携の為、看護師を中心とした、看護・介護共に対応し、看取りまでの経過を、施設内外の研修等でスキルアップを図っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>経営統合や管理者変更やという変革期にあるホームでは、入居者が快適に過ごされることを念頭に職員同士が協力しながらケアに取り組んでいる。介護度の高さや開設当初からの入居者という面から夜間帯の勤務体制(夜勤と宿直)を手厚くするとともに、全員での外出の困難さを個別外出での楽しむ時間を作る等理念にある「人生が輝き続ける…」の実践であると思われる。法人全体での委員活動に参加しながらのレベルアップ等スケールメリットが生かされ、地域密着型事業所として、小学校との相互交流や運営推進会議での情報が地域行事への参加に繋がり、忘年会では鍋を囲む等地域に溶け込む工夫が随所に表れている。SOS事業として台風時の避難場所となる等地域への還元も視野に運営されており、認知症ケア啓発の一環として認知症カフェの再開に大いに期待したい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ステラの風 理念1お一人お一人の人生が輝き続けるよう私達が寄り添います。2色々な方との出会いを大切に、日々の生活が送れるよう支援します。	昨年4月より管理者の変更や、11月より経営統合という変革期にあるホームでは、管理者として何が出来るか、入居者が快適に過ごされるようにと職員と協力しながら真摯にケアに取り組んでいる。そのケアの原点としてのホーム理念とともに、“共生・共学・共育もケアの拠り所と日々のケアに繋がりたいとしている。入居者個々の人生の1ページに笑顔を掲げ、全員で話し合いながら実践している。	次年度の目標を立てるべく職員と協議されている過程にあり、今年度の目標について達成度等全員で振り返り、次年度に生かされることを期待したい。理念を再確認する機会として活用いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事(小学校の運動会学習発表会等)地域清掃にも積極的に参加するようにしています。	地域の行事(運営推進会議参加委員からのリサーチ)であり清掃活動への参加や、小学校との相互交流(運動会への招待、ホームでの小学生の発表会や昔遊び等)熊本城マラソン応援、公園への散歩、近隣住民によるフラダンスのボランティアとの交流等地域の中での生活拡充に努めている。	ホームの夏祭りは運営推進会議の中で参加を声掛けされている。グループホームの行事時近隣住民にも声を掛ける等の働きかけを今後も継続いただき、地域にあるべきホームとしての基盤を確立頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭り・高齢者SOS事業で地域の方々に声掛けし認知症の事を知って頂き、認知症の方への理解に繋がっていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で良い事だけではなく悪い事も隠さずに報告頂いた意見をご家族様・職員にも公開しサービスの向上に活かしています。	地域包括支援センター、民生委員及び主任児童委員、自治会長、家族代表をメンバーに開催。ホームへの相談から転倒や事故・ヒヤリハット状況や苦情まですべてを開示し、意見交換によりケア向上に取り組んでいる。また、身体拘束廃止に向けた取り組みでの意見交換や、外部評価で見えた課題報告から委員から提案等も上るという有意義な会議である。	運営推進会議は、委員との充実した会議であるとともに、経営統合という面から法人理事長も参加されている。議事録からも意見の多さを確認された。法人の理事長や部長と顔を合わす機会として、代表家族のみならず他の家族に参加を促されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点は市役所に確認を行っています。事故や感染症等報告する必要があると思われる事由発生時は迅速に報告・連絡します。	集団指導や行政が開催される研修、地域のケア会議等に参加しケア向上に努めている。地域包括支援センターの依頼によりSOS事業の一環である台風時の避難場所としての提供や、インフルエンザ等の感染症等の報告の他、不明な事案は行政に確認し解決につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修・マニュアルを通してケアの確認を行っています。帰宅願望があらわれる方にも自由に行動して頂けるよう玄関も開錠し、職員がお話を傾聴などを行っています。	ホーム内外の研修により意識を強化させ、身体拘束適正化については運営推進会議のなかで拘束に当たる事案を説明している。入居当初は外に出たい等帰宅願望も見られたが、ホームでの生活に慣れ落ち着いた生活ぶりである。職員のバタバタとした時の言葉使いも言葉での拘束として捉え、繰り返しの研修やその都度注意喚起し、管理者を中心に身体拘束廃止委員会で拘束か否か検討する他、法人全体での身体拘束廃止委員会の中で検討・精査している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて虐待の防止について考える機会を持っています。虐待のニュースなどが多く職員とも日頃から話をし余裕を心掛けるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様のお一人が成年後見人制度を利用されており、職員で制度について勉強する機会を研修などを利用して作っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には、ご本人様・ご家族様にわかりやすく丁寧に説明を行い、ご理解頂き、同意を得るようにしています。不明な点などがある場合は、その都度説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会の際、意見や要望を頂きました。利用者様には各々に担当者を決め要望や意見の抽出を図っています。また苦情などがあつた際には報告書を作成し、職員全員に周知徹底を計ります。	職員は入居者とのコミュニケーションを図り、お互いに労わりあう姿や忙しいような気配に労りの声等もかけてくださる入居者もおられ、不安にさせないケアに努めている。年1回の家族会での意見等の収集や、訪問時に聞き取りし、対策については運営推進会議や家族会で報告している。入居者には担当者が聞き取りしている。	入居者のテレビを見ながらの声「〇〇を食べたい」に、外食等も計画したいという意向であり、今後の外出計画に活用いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションによる意見交換、全体会議により職員の意見や提案を聞き、日々のケアに繋げるように努めています。	日々の業務の中で職員の意見等を聞き取りする他、入職1年未満の職員は、常務や課長によるフォローアップ面談が行われ、法人が変わり、各委員会活動に参加し、全職員が切磋琢磨し、ケアサービス向上に努めている。月1回の経営会議のなかで、各委員の提案事項等を発表する等職員の意見や提案は上層部まで上がる体制である。	毎月の全体会議(ホーム)はケアカンファレンスが中心のように見受けられる。管理者は、職員のストレスケアとして不満等個別に聞き取りされている。今後、職員の日々出される課題や提案等は記録として残し全体会議の中での話し合うことや、申し出ることを躊躇する職員への聞き取り方法、例えば、職員へのアンケート等検討いただきたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の強みや得意分野に応じて、担当を振り分け責任とやりがいを持って仕事ができるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修と外部評価を取り入れ、研修を受ける機会を確保しています。また、国家資格の受験情報の提供・実務者研修受講の補助も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の地域ケア会議への参加や熊本県地域密着型サービス連絡会・熊本市ブロック会の会員になり、交流やネットワーク作りを行っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様にアセスメントをしっかりとし、こまめにコミュニケーションを行い不安な事には傾聴の姿勢で対応します。また、職員間で情報を共有し安心して頂けるように統一した声掛けと説明を行います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様へのアセスメントもしっかり行います。ご家族様が困っている事・不安に思っている事・要望に関して話を聞き、必要な場合は、迅速に対応するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話と要望をしっかりと伺い、「その時」まず必要としている支援を見極めができるよう努めます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、掃除等の日常生活の中で行う事を、本人様の状態や状況に応じて、職員と共にしてもらおうようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来られた際、ご家族様との時間を大切にしてくださいとお話ししやすい場所やお部屋を提供しています。また、ご家族様が希望して支援される部分(おやつや買い物等)は、お願いをして共に生活を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事へ参加し、地域との繋がりと交流を大切に考えています。夏祭り等、施設の行事にもご家族様へ声掛けを行い、ご家族様方との時間を出来るだけ多く持つことが出来るよう環境づくりに努めています。	ホーム周辺の田畑が残る環境はこれまでの生活を思い起こさせ、レクリエーションの中で職歴等に応じた声かけ等を行っている。カラオケで楽しんだり、マラソン大会の応援、小学生とけん玉等の昔遊びで交流する等これまでの関係性を継続させている。また、家族との有意義な時間を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話の合う、気の合う方同士になるように座席の配置を行っています。また、重度の方や耳の遠い方、言葉の上手く出ない方等は、職員が間に入り皆様と関わり合える環境作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	短期入院された方が御二人いらっしゃいました。入退院時の介助、送迎、着替えの準備等ご家族の負担軽減を図り、ご本人様に無理のない範囲でのお見舞いに行きました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様とのコミュニケーション、日々の様子、ご家族様からのお話から希望・思いを感じ、会議や職員同士の日々のコミュニケーションの中でのお話をしています。	担当職員やその日の職員がケアの中で入居者の思い等を聞き取りしたり、職員から提案(食べたいもの等)し意向を引き出している。またその時の会話を体調の良し悪しの判断としている。入居者のやりたいことを叶えることが理念に掲げる“人生の輝きの継続…”に繋がるとして、日々笑顔での生活に実現に向け、職員同士が話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや情報書、会議より全社員への申し送りを行い、今まで(入居前)と出来る限り同じ様な生活リズムで過ごして頂けるようご本人様を尊重したケアの統一を図っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態把握を行い、職員間で情報共有を行います。利用者様の有する力を生かし、引き出せるよう、必要以上な声掛けや介護にならないよう注意します。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の状況や要望に応じて計画作成を行っています。	管理者の変更や新しい法人として家族の思いを基に、ケアプラン等全て全職員で検討し再作成している。家族の思いに即した詳細なサービス内容であるが、入居者本人の思いも記載されることが望まれる。	入居者の思いには、担当職員等が聞き取りされている。入居者のやりたいこと等把握した事案は職員同士で検討されており、プランニングに反映いたしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・業務日誌を活用し、情報共有や介護計画の見直し検討に生かしています。その中で良かった事、うまくいったケアの記入を行い実践に繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて、臨機応変に対応できるよう心がけています。「まずはやってみよう」という気持ちで挑戦しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパー・小学校やボランティアとの交流を活用しています。まだ豊富にあるはずの地域資源を把握・活用が出来ていないと感じる部分もあるので、今後の課題と考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に定期的に訪問診療に来て頂き、必要時や緊急時には主治医に連絡し指示を頂いています。また、その他のかかりつけ医や主治医にも定期的に受診をし、その際には職員が付き添うことで状態や症状を伝えています。	協力医による月2回の訪問診療や、他の医療機関への定期受診など、本人・家族の希望するかかりつけ医を支援している。受診結果は、家族の訪問時に報告している。また、訪問歯科や歯磨き、義歯の管理を個々に応じて支援し、食前の嚥下体操も日課として取り入れている。日頃の健康管理は看護職員を中心に、バイタルチェックやインフルエンザなど感染症への対応方法を主治医の指示を受けながら取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の状態の変化が見られた場合は看護職に報告・相談し対応しています。必要時にはご家族様、主治医に連絡し、受診や搬送の対応を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合は、医療機関にご本人様の状態やADL・認知症症状などを細かく情報提供します。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高度な医療が必要になる場合や終末期等の受け入れ時、ご本人様、ご家族様ができるだけ戸惑われる事の無いように主治医・管理ケアマネを交えて早期からの話し合いをし、ご希望に沿うケアを他職種連携で行っていきます。	入居時に重度化・終末期支援について、指針をもとにホームの取組を説明し、その時点での意向を同意書で交わしている。本人・家族の希望があれば終末まで支援することは、職員も理解し業務にあたっている。入居者の最終を支えた際は、その方を偲びながら、振り返っている。管理者は看取りに関する研修会をホームで開催していきたいとしている。	高齢化傾向にあり、急変時やリスクについて家族への説明とともに、同意書を交わすことを検討いただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修・マニュアルで確認を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防局の方々に来て頂き、消防訓練を実施昼夜を問わず利用者様が避難できる方法を教えて頂くのと同時に消火器の使用法等の指導も頂きました。台風等の災害時、地域の方からのSOSサービス事業への協力も継続しています。	今年度は1回避難訓練を実施しており、年度内に夜間想定防火訓練を予定している。参加協力を得た消防署からは、普段から災害があるという事を意識して、業務にあたる重要性について指導を受けている。台風などの災害時には、地域の方々のSOS事業としてに対応するサービスも継続されている。	安全管理の一つとして、コンセントの埃やホーム周辺に可燃物がないかなどチェック表の活用も有効と思われる。入居者の避難状況確認に、居室入り口に避難チェックシールなど確実な把握に繋がる工夫を検討いただきたい。災害備蓄は、必要な物や確保しているものを一覧表にし、職員間での共有や家族への報告も安心に繋がると思われる。また、運営推進会議の参加委員にも訓練への呼びかけを検討いただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は各個人の希望、体調面に合わせてお一人ずつ安全に配慮し行っています。また、トイレの声掛けは耳元で静かに行う、排泄に関する事、利用者様の申し送りを利用者様の前でしないことに気を付けています。	職員は自然体で話し掛け、言葉使いが荒くなった場合は、一呼吸おいて対応することを共有している。呼称は苗字でとし、同性介助については入居者に希望を確認している。個人情報の使用については、本人・家族の了解を得、居室へ入る際は、了承とノックを申し合わせている。家族から得た情報により、化粧品の使用や希望に応じて訪問理容を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員のペースにならないように利用者様をよく観察し、言葉表現することが困難な方にもわかりやすい様に声掛けを行い反応を待ちながら、行動に移すようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事、余暇時間もご本人様のペースと希望に合わせてできる限り沿って対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様より情報収集を行い、化粧の確認や髭剃り等の支援を行っています。散髪も希望があった際声掛けをし、料金の適切なヘアカットの方に来て頂きカットしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	バランスの良い食事作りを心がけており、行事に合わせた食事も取り入れたりして楽しめる工夫をしています。	日々の調理はホーム内で専任者が中心に行い、食事支援については、給食委員が厨房と意見交換を行っている。運営推進会議のメンバーとの鍋パーティーや、ホットプレートを使ったおやつ(ホットケーキ・お好み焼きなど)作りは、入居者にとっても楽しい取組であったと思われる。嚥下力に応じお粥やキザミ食で提供し、パン食が苦手な方にはご飯を準備するなど個別対応に努めている。	職員も検食を兼ね一名でも同じものを食べる事で、思いを共有できるものと思われ検討いただきたい。入居者が調理に関わる機会は殆どないことから、今後は届いた食材を一緒に見たり、触れながら調理方法を検討するなど、出来る事で食への関わりを支援されることを期待したい。食事に時間を要する方にも、横に座り見守りや声掛けなど、食事を楽しんでもらえるような職員の関わりを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせた食事量、食事形態(刻み・お粥・とろみ)スプーン・箸等の対応をしています。一日を通して食事量と水分量が確認できるようにチェック表にて把握するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い歯ブラシやコップを準備し見守りしています。自力での口腔ケアが難しい方には、スポンジブラシとガーグルを用意しうがいのみ自力で行って頂いています。月二回で歯科医師と歯科衛生士の訪診・チェックを受けています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けと誘導を行い、トイレでの排泄の習慣を保ってもらえるようにしています。チェックシートにて排泄のパターンや状態の把握も行っています。	チェックシートにより把握した排泄パターンにより、声掛け、誘導を行っている。日中はトイレでの排泄を支援し、車椅子対応2か所を含んだ3か所のトイレで、使い慣れた場所を利用されている。殆どがリハビリパンツで過ごされ、夜間のみオムツの方もおられる。ポータブルトイレを居室に置かれている方もありますが、現在使用はなく撤去を予定するなど、居室環境に配慮している。排泄用品は適切なものを検討し、職員が購入に出向いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	足踏み運動や歩く機会、食事、水分摂取の工夫を行い、便秘予防に取り組んでいます。排便コントロールが必要な方には、医療機関と連携を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	完全個室体制を行い、プライバシーの確保に努めています。その方の希望に合わせて臨機応変な対応行っています。お湯の温度や湯量、入り方など本人様のこだわりに沿って支援を行っています。	1対1や2名介助でゆっくりした入浴を週3回支援し、湯温も温湯やぬる湯など好みを確認している。ホームには趣きの変わった2か所の浴室を設け、居室の近くの使い慣れた浴室や、身体状況に応じた場所で入浴されている。菖蒲や柚子湯の季節湯は継続して取り組んでおり、今後は日常の入浴が楽しめるよう、入浴剤の使用も検討していきたいとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はご自分の居室で休息される方は居室にて、その他にもゆっくりできるスペースやソファも準備しているので希望に合わせて使用してもらっています。夜間は個室の居室に休まれ、照明の調節やナースコールの設置定期的な巡視にて安心して過ごせる配慮を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は飲み忘れがないように手渡し確実に飲まれるのを確認しています。看護職管理のもと、内服管理と支援を行っています。薬の変更や追加があった場合は様子観察を行い、必要時は主治医に連絡しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理作り、食事の準備、茶碗洗い、洗濯物たたみ、掃除などその方の力を生かした、好まれている事をしてもらう事で、役割を持ってもらっています。嗜好品を本人様と一緒に買いに行き、楽しみと気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物が好きな方は買い物へ行ったり季節に応じてみかん狩りや菖蒲園、各種お花見、初詣など季節を感じてもらえるような外出活動も計画しております。	車いす使用の入居者も多く、全員での外出は困難になっており、日常的には個別や数人での散歩を行っている。昨年の熊本城マラソンが記憶にある方が、CMを見て「今年も行きたい！」と発せられ、1対1で応援に出かけるなど、個別の要望に可能な限り対応している。また、熊本新港、季節ごとの花見などのドライブに出かけ、初詣は感染症の時期であったため、今年は3月に予定されている。	管理者は外食も兼ね戸外に出る機会も持ちたいとしており、実現が期待される。また、外出支援については、家族へも参加を呼びかけ、入居者と一緒に楽しい時間を過ごしてもらえる取組を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際には、好きなものを選んで、可能な方はご自分で払ってお釣りをもらい財布の中へ入れるまで見守りするようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の面会・電話を希望される方には、対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴槽とトイレは、ホールから少し離れた場所へ設置され、直接中が見えないようプライバシーの確保に努めています。家具も利用者様の体型に合わせて使えるものを設置しています。また、オープンキッチンにすることで、一緒に作りやすい環境と食事の香りや音を感じてもらっています。	ホーム内には共有スペースとして食堂と、居室側にホールが設けられ、食事やカラオケ、ボランティア交流など目的に応じて使い分けられている。ゆとりの空間は入居者にとっても歩行訓練やメリハリのある時間を提供できている。また、台所からの匂いや音も入居者の楽しみや職員との会話にも繋がっている。食堂から望める山や隣地の田んぼも入居者にとっては、心安らぐものであり、特に田植えがすんだあとは、「稲刈りはいつね〜！」と、尋ねられるなど、稲の成長を楽しまれている。	ホーム内は感染症対策の面からも換気や掃除に努めている。今後は口腔ケアセット(歯磨き・コップ)の置き場所等検討いただき衛生面からの見直しに期待したい。また、掲示物については、文言は適切であるかなど確認の機会を持たれることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファやテレビ、ホールから離れた場所に畳の空間を設置することで、皆と違うテレビを見たいとき、一人でもゆっくりしたい時に自由に活用されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の状態に合わせて、和室・洋室・布団・ベットを使用してもらっています。また希望に合わせてご自宅より使い慣れた家具や物を持ち込んでいただき、本人様が安心して居心地良く過ごしてもらっています。	入居の際、必要な準備品と椅子やタンスなど馴染みの品があれば安心されることを伝え、協力を依頼している。和・洋室が設けられ、ベッドや布団敷きなど身体状況や希望に応じて使用されている。多数のぬいぐるみや遺影など、その方にとって心の拠り所となっている。中にはテレビの持ち込みもあるが、リビングの共有テレビを見られるため、殆ど使用されないようである。職員は起床時をはじめ、換気の徹底や、個々に応じたエアコンの調整により、居心地よく過ごせるようにしている。	車いす使用が長い方には、食後一旦部屋で休んでもらうなど、個々に応じて居室での過ごし方を検討している。今後も一人ひとりに応じて、安心や居心地の良い居室となるよう、家族の協力も得ながら取り組まれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは3種類、浴室は2種類あり、使いやすい所を利用されています。また、浴槽も入りやすい様に座って入れるスペース等の工夫をして自力で出来る環境を作りました。		